

令和6年9月13日

會議録

会議の名称	令和6年度第1回加東市総合教育会議
開催日時	令和6年7月29日（月）午後3時30分から午後5時45分まで
開催場所	加東市役所 2階 201会議室
出席及び欠席委員の氏名	
＜出席委員＞ ・市長 岩根正 ・教育長 藤原哲史 ・教育委員 田中寿一、後藤純子、岸本恵一、別惣裕美子	
＜欠席委員＞ なし	
説明のため出席した者の職氏名	
なし	
出席した事務局職員の氏名及びその職名	
・副市長 小林勝成 ・こども未来部長 田中孝明 ・教育総務課長 西山英希 ・中央図書館長 田中美紀子 ・こども教育課長 下岡正裕 ・教育総務課副課長 堅田美佳 ・学校教育課主査 福島奨平 ・企画政策課長 岸本純子 ・企画政策課主査 仲井智紀 ・教育振興部長 鈴木敏久 ・こども未来部参事兼学校教育課長 井上裕子 ・生涯学習課長 岸本孝司 ・小中一貫教育推進室長 丸山真矢 ・発達サポートセンター所長 友藤由貴子 ・学校給食センター所長 芹生祥子 ・まちづくり政策部長 三木秀仁 ・企画政策課副課長 村上計太 ・企画政策課主事 畑谷拓哉	
1 議題	
(1) 第2期加東市教育大綱における令和5年度の取組成果について…資料1 (2) ICT教育の推進について…資料2 (3) 教員の働き方改革について…資料3 (4) その他	
2 会議の結果及び経過	
⇒別紙「令和6年度第1回加東市総合教育会議・会議の結果及び経過」のとおり	

(別紙) 令和6年度第1回加東市総合教育会議・会議の結果及び経過

発言者	会議の結果及び経過／発言内容
事務局	1 開会 2 市長あいさつ 3 協議 (1) 第2期加東市教育大綱における令和5年度の実施成果について まずは内容について事務局から説明します。
	資料1に基づき事務局から説明
	本協議事項について、ご意見などありますでしょうか。
司会	
委員	今年の6月から7月にかけて学校訪問を行いました。子どもたちが落ち着いた環境の中で学習に取り組んでいる姿を見て、取組の成果が表れていると思いました。 来年の4月に小中一貫校社学園が開校することが、ひとつの転機になると思っています。これまで小規模校がたくさんあり、少人数で大人の目が行き届いた環境で教育を受けてきました。少人数が故に他校とどう交流し、人と人が関わるかが大きな視点でしたが、小中一貫校になり、1クラスの人数が多人数になることで、多人数の中で一人ひとりをどう伸ばしていくかを大きな視点に考えなければなりません。それには行政と地域、学校が一体となり取組む必要があると思っています。 最近、本のない家庭が増えたというニュースをよく目にします。知的好奇心や情操教育の観点から本はとても大切ですが、スマートフォンの普及で家庭の中から本が消えていっています。加東市は、様々な図書館の活動が充実していて貸出し数も多く素晴らしいと思っています。こども園や学校との連携を含めて図書館の活動をさらに充実させ、良い点をさらに伸ばしてほしいと思っています。
委員	一保護者として加東市は手厚く色々なことをしてくれていると実感しています。特に給食費の無償化は非常にありがたく、生活に困窮する家庭が少なからずある中で、給食は命綱的な側面があると思うので、今後も継続していただきたいです。 英検チャレンジは、無料なら受けてみようかなといった具合に、英検を受けることのハードルを下げってくれるので、それをきっかけに勉強意欲が生まれ非常に良い取組だと思っています。 保育士等キャリアアップ研修には、私もファミリーサポート講習会の一環で何度か参加しましたが、土日にもかかわらず様々な園から保育士の方々が参加しており、努力を間近で感じました。昨今は保育士不足を耳にするので、人材の確保は非常に重要なことだと思います。 前の発言にもありましたが、スマートフォンの普及により、子どもたちは乳幼児期の段階からタブレットに慣れ親しんでおり、心身の健康への影響考えると、不安になることがあります。図書館のブックスタート事業が開始されるということで、子どもたちはもちろん、保護者にも本に接していただく機会になると期待しています。
委員	社学園が開校するにあたり、これまで少人数で地域に見守られて育った子どもたちは不安を感じると思います。地域の方々も、同じ思いだと思うので、子どもがスムーズに学校に馴染めるよう、地域とも協力しながら取り組んでほしいです。 学校訪問をする中で、外国人の英語教員とコミュニケーションをとり学ぶ生徒が増えた印象がありました。英検チャレンジの利用率が18%増加したことは大変喜ばしい成果だと思います。

	外国人の子どもが増えていますが、どうしても文化や言葉の壁があります。子どもが日本語を話せても、保護者が話せない場合もあります。そうした子どもたちに教育の遅れが生じないように注意する必要があります、その為に取り組むとして資料の中に「外国人児童生徒等連絡協議会での情報共有によって、外国人児童生徒の支援や受け入れに当たり、具体的かつ有益な支援につなげることができた」とあるが、具体的にどのような支援を行ったかを教えてほしいです。 木管コンクールについて、東条学園の生徒がボランティアで関わっていますが、生の演奏に触れる良い機会なので、社・滝野地域の生徒も関わってほしいと思います。送迎が難しく参加しにくい状況があるのではないかと思います、支援はできないでしょうか。
事務局	外国人児童生徒の支援について、実際、日本語指導が必要な生徒は昨年度13人でしたが、今年度24人と増えています。昨年からは始まった外国人児童生徒等連絡協議会では、子どもたちにどのような支援が必要かを話し合っています。具体的な支援として、多文化共生サポーターによる学習中の言葉の翻訳等の学習支援、学校生活に馴染めない、コミュニケーションに不安がある子どもに対する精神的な支援を行っています。また、保護者に対しても、家庭訪問や懇談の際に、多言語相談員が同行する等して、十分なコミュニケーションがとれるよう支援を行っています。 木管コンクールについて、昨年も東条学園の吹奏楽部、生徒会が運営に関わっています。社・滝野地域の学校に対しても東条学園と同様に案内はしていますが、参加がない状況です。参加の際には、保護者の送迎が必要になります。送迎に係る支援はできかねますが、引き続き参加を促していきたいと思います。
司会	情報提供ですが、外国人児童生徒支援の観点から、学校での支援のほかに、NPO 法人加東市国際交流協会が、子ども日本語教室を社会場と東条会場の2か所で行っています。
委員	支援学級に在籍する児童が多く、その背景は発達の課題や外国人児童生徒で日本語が分からない等様々であり、それに対応する教職員の日々の努力や大変さを学校訪問の際に感じました。発達サポートセンターでは、発達の課題がある方への支援を行っています、幼児教育のより早い段階で支援につなげ、学校と連携しながら継続的に支援していくことが重要だと思います。 連絡ツールであるテトルを導入していますが、外国語対応が可能か、十分に理解できる運用方法になっているかを考える必要があると感じました。
事務局	テトルは外国語対応ができていません。テトルの運用のみならず、外国人児童生徒及びその保護者の支援のため、現在アプリの調査研究を進めています。例えば、電話でオペレーターが24時間対応するアプリなど、様々な存在するため、今後適切な方法の検討を進めていきます。現状のテトルでも、長文にすると伝わりにくいのので、短いキーワードで伝えるなどの工夫をして運用しています。
事務局	(2) ICT 教育の推進について まずは内容について事務局から説明します。 資料2に基づき事務局から説明
司会	本協議事項について、ご意見などありますでしょうか。
委員	小中一貫校によりが人数学級になるので、個別最適な学びや協働的な学びを充実するために、ICT 教育は欠くことのできない重要なものになっています。学習・行

	動面に課題がある、外国にルーツがある、特定の分野に異彩な才能を持つ、集団生活が苦手な不登校傾向がある、家庭に課題があるなど様々な子どもが教室にいます。全ての子どもに対応するには、一人の担任ではとても不可能なので、ICT の活用が手助けになってほしいと思います。学習に遅れのある子どもに目を向けることは大切で、理解の早い子どもを待たせないことも大切です。個別最適化した学びを実現することで、子どもを伸ばしてほしい。それをしようと思うと、教師が ICT を使えるのではなく、子どもが ICT を使えないといけません。それを目指して ICT 教育を推進してほしいと思います。
委員	ICT 教育は、子どもの学びのみならず教員の働き方改革にも寄与する部分があり非常に大きなメリットがあると実感しています。一方で、健康への影響の懸念があり、子どもの健康面もしっかり注視していかないとはいけません。文部科学省が示している「児童生徒の健康に留意して ICT を活用するためのガイドブック」ではタブレットを学校の授業で使用する程度であれば、健康への影響は少ないと書いてありますが、授業以外の自宅学習やゲーム、SNS 利用など、昔とは比べ物にならない時間をタブレットの画面を見ることに費やしています。眼精疲労や視力低下は既に実感している子どもや保護者がいると思いますが、その他にも聴力や脳の発達など健康への影響がないか、情報収集、注視をしてほしいと思います。
委員	学校訪問で 6 年生の授業を見学した際、ブラインドタッチができる子どももいれば、ほとんど使えていない子どももいました。それが資料にもある 1 人 1 台タブレットの使用日数に関するアンケート結果に表れているのではないかと思います。導入から数年しかたっておらず、課題は当然あると思いますが、ICT を上手く活用できない子どもをどのようにサポートするかは重要な課題だと思います。馴染みやすい、使いやすいアプリを導入し、子どもが積極的に学びたいと思えるような仕掛けをしてほしいです。 セキュリティに関して、児童の安全確保のため、アカウントの検索履歴や活用状況の見守りを毎日行っているとありますが、これは教員が行っているのでしょうか。膨大な仕事量になると思いますが、それにより教員の負担が増えるのであれば本末転倒になりかねないと思います。
事務局	検索履歴に関しては、教育総務課で不適切なワードが無いかを確認をしています。ワードのブラックリストを作成することで、フィルタリング機能により、子ども不適切なページにたどり着かないような仕組みになっています。
委員	子どもはタブレットやアプリに触れて、発見し、吸収していく。どんどん使っていくことが大切だと思います。夏休み期間のタブレット持ち帰りを推奨していますが、夏休みの期間は子どもの知的好奇心が増します。個人のスマホやパソコンがない子どもも、調べ学習などにタブレットを使うことができ、良い環境を作り出せていると思います。自分の進度に合わせて、学習をどんどん進めていけるという利点もあるので、子どもがどんどん使っていけるような工夫をすることが大切です。そのためには、やはり十分な数の専任スタッフが必要だと思います。
教育長	教員にとって、子どもたちをその気にさせることが最も大切な仕事であり、そのきっかけが ICT だと思っています。先の意見にもありましたが、小中一貫校を進めていくことで、多人数学級が増える。個別最適な学び、個別対応が非常に重要であり、そのためには ICT の活用が大切です。 文部科学省でも個別最適な学びと協働的な学びの一体化が大切だと言われています。私も当然大切だと思いますが、「子に始まり子に帰る」、自分で調べて最後は自分で結論を出すことが一番の理想だと考えています。学習の中で ICT を活用して、ある子どもは難しい問題に挑戦し、ある子どもは自分で情報収集し考えをまとめる。

事務局	ただ、それができる子どもばかりでなく、誰かに教えてほしい、話が聞きたいという場面が出てきます。そうしたときに ICT を活用した協働的な学びが必要になってきます。 やはり重要なのは教員の役割で、タイピングや情報検索などの基礎的な技術や、収集した情報を比較・分析する方法を教えて、定着させることが大切だと思います。資料 2 の 4 ページのアンケートで、発表資料を作ることができるかという質問に、89% が肯定的な回答をしています。得意かという質問になると 64% に減少します。得意をどれだけ上昇させるかが大事だと思います。 ICT 支援員が現場にいて、子どもや教員の ICT 活用能力の向上に、本当に助かっています。次の議題の働き方改革にもつながるかもしれませんが、テトルを使った保護者アンケートや学校評価も ICT 支援員に色々と教わりながら進めており、業務改善につながっています。 これまでの指導方法を見直して、ICT をどの場面で活用していくかが重要になっています。ある学校を見学したときに、一つの教室に複数の教員がおり、あるグループは話し合い学習をし、ある子どもは調べ学習をする。ある子どもは教員に質問するといった複線型の授業が行われていました。そうしたことも考えていながら、滝野東小学校で今年度 ICT を活用した教育プログラムの検証を進めていますが、今後、検証結果を各学校に啓発していきたいと考えています。 (3) 教員の働き方改革について まずは内容について事務局から説明します。 資料 3 に基づき事務局から説明
司会	本協議事項について、ご意見などありますでしょうか。
委員	現場でできる働き方改革は、意識改革レベルであり、ごくわずかな部分だと思います。本当の意味で働き方改革をしようと思うと、仕事量を減らすか人員を増やすことに行き着くのだと思います。小中一貫校を進め、多人数になることで、これまでできていた支援ができなくなったということがないような、働き方改革を進めてほしい。学校に配置されている様々な支援員は、国の基準では学級規模や学級数に合わせて配置されますが、そうではなく加東市の基準で、小中一貫校になる前の支援員の数は最低限確保することを市長にお願いしたいです。小中一貫校になって、支援員が減り、これまでできていた支援ができなくなるといったことがないようにする。それが教員の働き方改革につながり、子どものためになると思います。 環境が変われば必ず新たな業務が発生します。バスの手配や人数が増えることで出欠確認の負担が増える、敷地が広大になり除草作業が追い付かなくなるなどが予想されます。私の経験上、学校の規模が大きくなれば教育相談は必ず増えます。電話で教育相談を一旦受けると約 2 時間程度時間を要し、そうしたことに誰が対応するのか、先を見通した人員配置をお願いしたいです。
委員	こども園を訪問した際に、保育士の人員の問題で、一時預かりの対応が難しいという話を聞きました。募集をしても上手く採用に繋がらないようで、募集・周知の仕方に工夫が必要だと思います。現状、保育士の募集は市のホームページで行っていると思いますが、それでは積極的に仕事を探している人にしか届かない。私の周りにも保育士資格を持っているが、働いていない人が意外と多く、潜在的な資格保有者は結構いると思うので、積極的に仕事探しはしていなくても、子どもが手を離れたし何かしたいなとぼんやり思っている人や、昔勉強したし、ちょっとやってみようかなと思ってくれる人に情報を届ける工夫をしてほしいです。例えば、公民館やイベント会場でチラシによる周知をする。その他にも、保育士資格はあるが、長

事務局	期間のブランクがあり踏み出せずにいる方などの背中を後押しするための講習やセミナーがあったら良いと思います。 働き方改革に伴う部活動の変化について、ある学校では年間を通して最終下校時間が５時で、朝練がないと聞いています。加東市は、従来通りの部活動を行っていると思いますが、今後の方針を検討していく中で、働き方改革の名のもとに十分な部活動時間を確保できず、子どものやる気を削ぐようなことにならないようにしてほしいです。練習ができていなければ、負けて当たり前という気持ちになるだろうし、あくまで子どもたちにための働き方改革であってほしいと思います。 テトルについて、朝の忙しい時間の欠席連絡がテトルを使ってできることは、教員だけでなく保護者も助かっています。アプリの説明を見ていると、学校からの連絡は様々受け取れますが、保護者からの連絡は欠席連絡程度で、その他の相談などは電話や電子メールでしているのでしょうか。 保育士の確保に関して、年に１回、保育協会と連携した保育士フェアを開催し、保育士の確保に努めています。現状、市採用の保育士についてはホームページ上の募集になっており、いただいた意見から今後工夫を考えていこうと思います。ブランクがある方に対する講習という話もあったが、現状そうした方に特化した講習はありません。ただ、保育士のキャリアアップ研修やその他にも兵庫県が行っている研修があるので、そうしたものも受講していただきたいと思います。 テトルについて、学校からは資料添付やアンケート実施など様々可能ですが、保護者からは欠席連絡のみ可能になっています。その他の相談等は電話で対応しています。
委員	資料３の４、５ページのグラフを見ると、働き方改革に取り組んでいただき、昨年と比べて改善されていることが読み取れます。一方で、中学校・義務教育学校（後期）の超過勤務時間８０時間超～１００時間、１００時間超の割合は変化していません。これは、同じ職員なのか、それとも相当の時間を要する業務が存在するのかどうなのでしょう。状況によって改善の方法は変わってくると思います。 また、小中一貫校になり、従来の小学校と中学校の教員が同じ職員室になることになります。中学校・義務教育学校（後期）になると業務が増えるのは分かりますが、その教員ばかりが超過勤務をしていれば、中学校・義務教育学校（後期）の教員になりたいと思う人が減るのではないかと心配します。是非、対策を練って対応してほしいです。
事務局	中学校・義務教育学校（後期）の超過勤務時間８０時間超～１００時間、１００時間超に関して、８人の方がそうした超過勤務状況になった月がありました。中には２月、３月と複数回に及ぶ方もおり、比較的中堅の教員に多い傾向にあります。月の超過勤務時間が８０時間を超えた方には、産業医面談を実施し、健康状態の確認、自身の業務の振り返りを行い、状況を学校長と共有し改善を促しています。
委員	学校内の業務を、教員がすべきことと、その他の職員に任せることができることに明確に分けないと、教員の負担が増す一方で働き方改革は進まないと思います。様々な支援員がいるので、協力してやっていく体制構築が大切だと思います。 また、コロナ禍で必要ない業務や行事の洗い出しができたと思います。そうしたことを活用しながら教員の負担を減らしていったほしいです。
司会	（４）その他 協議事項については以上ですが、総括的なことやその他に関する意見はあるのでしょうか。

市長	大綱に関して、これは私の考えですが、子どもたちが何か一つでも得意なものを見つけられるようにしてほしいと思います。それは例えば、科学やスポーツ、ものづくり、昆虫博士等どんなことでも構わない。なぜかという、一つのものが伸びると周りのものもつられて伸びるという「三角理論」を信じているからです。何か一つ自信が持てることがあれば、こっちもやってみよう、あっちもチャレンジしてみようと思ってどんどん伸びていく。これは、クラス単位でも起こり得ることで、一人何かで飛び抜けた子がいれば、それをみて自分にもできるのではないかとチャレンジを始めます。結果、クラス全体が伸びる。クラスが伸びれば今度は学年が伸びる。だからこそ、教員には子どもたちに何か一つでも興味を持たせるような教育、関りをお願いしたいです。それが個性を伸ばす教育だと思います。 ICTに関して、先の発言にもありましたが、学習速度が速い子はどんどん先に進めていける。逆につまずいている子、算数では九九や割り算、分数でつまづくことが多いと思いますが、何度も分かるまで繰り返し学習することができるといったように、個別最適な学習が ICT の素晴らしい点だと思います。探求学習に使うことももちろん重要ですが、基礎学習に活用することを是非意識してほしいです。ドリルパークは既に導入していますが、もう一つ重要なのが授業動画です。都市部の塾では10年以上前から活用していることですが、学習速度の速い子は授業動画を倍速で見えています。ある記事を読んで衝撃を受けたのですが、英語のヒアリング授業動画を3倍速で見ている子どもがいます。コロナ禍で、そうした都市部の子どもとの間に、差が生まれていると思います。その差を埋めるために ICT を、子どもが使いこなせるようになることと効果的な中身があることが重要だと思うので、是非頑張してほしいです。 個性を伸ばす教育や ICT 教育を推進しようとする、と教員の手を空けることが大切です。働き方改革が必要になりますが、実際現場の教員が何に手を取られているかを、よく分析し対応してほしいと思います。今回の資料では、部活動の地域移行については触れられていなかったが、非常に大事な要素だと思うので、適切な方針を定めて進めてほしいと思います。 これは私の持論ですが、子どもの伸び方は教員次第だと思っています。だからこそ教員が大切です。10年かけてでも良い教員を育ててほしい。それができれば、加東市の宝になります。 様々な話しましたが、すぐに全てに取り組めるとは思っていません。小中一貫校に学校の形態が変わることで、小学校と中学校の融和に時間がかかります。ICT 教育にしても、授業の切替えには時間がかかります。東条学園については、小中一貫校化して3年が経ち、小学校と中学校の融和についてはある程度進んだと思うので、これから ICT 教育を推進することに加えて、個性を伸ばす教育にも是非取り組んでほしいと思います。社、滝野については、これから小中一貫校化するので、まずは小学校と中学校の融和と ICT 教育の推進に取り組んでほしいと思っています。東条学園には先達者の意地を見せてもらい、社、滝野には今から準備を進めていき、追い付け追い越せの精神で頑張してほしいです。
教育長	教員が一番時間を費やしたいのは、子どもと触れ合うこと、わかりやすい授業をするために教材研究をすることです。やはり、子どもは先生と話す、遊ぶことが大好きです。楽しくわかりやすい授業、それも ICT を使って行うことで、教員と子どもの良好な関係ができ、最終的には不登校やいじめの解消にもつながると思います。そのための時間を十分確保するために、働き方改革を進めていきたいと思っています。 東条学園は今年で4年目になり、来年度、社学園が開校します。両者は規模が違うので、全てが同じようにはいかないが、当然東条学園で良かった取組は活かしていきます。社学園の開校には、やはり子どもも教員も不安を抱えています。特に小規模校の子どもは多人数になることに対する不安が大きいと思います。これまでも学校同士連携し交流してきましたが、残りの8か月で不安を解消、円滑な移行ができるように努めていきたいと思っています。

	配置していただいたスクールロイヤーに関して、私も保護者対応で行き詰った際に相談に行き、法律的な観点からの後押しがあり、解決につながったことがありました。今後、活用を進めていき、教員の負担軽減、働き方改革につなげていきたいと思います。 4 閉会
--	--